

ラトビア月報

【2014年5月】



2014年（平成26年）6月発行
在ラトビア日本国大使館
<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【政治】

- ・ 外国人不動産購入者に対する居住許可付与制度の見直し（P. 1）
- ・ 政府はウクライナのOSCEミッションに2万ユーロ拠出を決定（P. 1）
- ・ 欧州議会選挙実施（P. 1）

【経済】

- ・ リガ鉄道車両製造会社（RVR社）の売却（P. 5）

【外交】

- ・ ベルズィンシュ大統領のウズベキスタン訪問（P. 8）

【日本との関係】

- ・ リガ・マラソン，優勝は日本人（P. 11）

【その他】

- ・ アイスホッケー世界選手権でラトビアのチームが健闘（P. 12）

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料を取りまとめたものです。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。「在ラトビア日本大使館作成の資料によれば」といった引用は避けていただくようお願いいたします。

—政治—

【今月の注目記事】

◆外国人不動産購入者に対する居住許可付与制度の見直し

5月8日、改正移民法を審議中だった国会は、外国人のラトビアの不動産購入による同国居住許可（5年）申請条件としての不動産価格の最低額を、原案の15万ユーロ（約2,100万円）から25万ユーロ（約3,500万円）に修正する改正法案を可決した。これはラトビアの全地域に適用される。また、ラトビアで居住許可を初めて申請する外国人は、不動産購入額の5%を国庫に納付しなければならないことが定められた。

現行制度では、居住許可申請のための不動産購入価格の最低額はリガなど主要都市で142,300ユーロ、他の地域で71,150ユーロとなっていた。一方で、右派政党「ナショナル・アライアンス」が条件として強く主張していた居住許可の年間発行数に関する制限は導入されなかった。同改正法は今年9月1日に施行される。

◆政府はウクライナのOSCEミッションに2万ユーロ拠出を決定

5月20日、政府はウクライナにおけるOSCE特別監視ミッション（治安状況の情報収集、少数民族の権利に関する監視等）を支援するため2万ユーロを拠出する事を決定した。

◆欧州議会選挙実施

5月24日、欧州議会選挙が実施された。投票率は、中央選管の予想を大幅に下回る30.2%となり過去最低となった。

<投票数・議席数>

| | | |
|---------------|--------|-----|
| ●統一 | 46.19% | 4議席 |
| ●ナショナル・アライアンス | 14.25% | 1議席 |
| ●調和 | 13.04% | 1議席 |
| ●緑と農民連合 | 8.26% | 1議席 |
| ●ラトビア・ロシア連合 | 6.38% | 1議席 |

<当選議員・所属政党>

| | | |
|--------------|-----------|----------------|
| ●V. ドンブロウスキス | （前首相） | 「統一」 |
| ●S. カルニエテ | （現欧州議員） | 「統一」 |
| ●A. パブリクス | （前国防相） | 「統一」 |
| ●K. カリンシュ | （現欧州議員） | 「統一」 |
| ●R. ズィーレ | （現欧州議員） | 「ナショナル・アライアンス」 |
| ●A. マミキンス | （ジャーナリスト） | 「調和」 |
| ●I. グリグレ | （国会議員） | 「緑と農民連合」 |

● T. ジュダノカ (現欧州議員) 「ラトビア・ロシア連合」

与党「統一」は、2013年の地方自治体選挙ではリガにおいて惨敗（60議席中9議席）したが、今回の欧州議会選挙では4割以上の票を獲得し圧勝した。

一方、親露系野党政党連合「調和センター」（欧州議会選挙では同連合多数派の「調和」が単独で立候補）は2011年の解散国会選挙及び2013年の地方自治体選挙で圧勝した（国会：100議席中31議席，地方（リガ市）：60議席中39議席）が、今回の選挙では約13%の得票率にとどまった。これは、「調和センター」の支持票が、「調和」と同連合から立候補したもう一つの政党に散ったこと、ウクライナ情勢を受けてロシアにどのような態度をとるべきか迷っていた人々の票が「統一」に流れたこと、「調和センター」の支持者は主にラトビア国内での問題に関心を有しており、欧州議会における「調和センター」の発言力を疑問視する者が多かったことなどが理由と考えられている。

＜欧州委員会委員候補にドンブロウスキス前首相＞

6月3日、連立与党は、今回欧州議員に当選したドンブロウスキス前首相を次期欧州委員会委員として推薦することを決定した。同氏はラジオのインタビューにおいて、「経済または通貨問題担当のポストに就きたい」と述べた。同氏が欧州委員会委員に就任した場合、バイデレ現欧州議員が繰り上げ当選する。

◆ラトビアのEU加盟10周年記念行事開催

5月1日、ラトビアのEU加盟10周年記念行事を開催された。同行事で演説したリンケービッチ外相は、「EU加盟がラトビアを発展させ、ラトビアに利益をもたらした」、「ラトビアは過去10年にわたり、EU及びNATOの完全な加盟国として、自ら様々な分野におけるEUの意思決定に参画してきた。ラトビアは欧州統合の中心にいる」と述べた。

◆スドラバ前会計検査院長官が新党を結成

5月5日、スドラバ前会計検査院長官は新党「心からラトビアのために(For Latvia from the heart)」を設立し、党大会において同氏を党首、クートリス前憲法裁判所長官等を同党理事に選出した。

◆5月9日のロシアの戦勝記念日は平穏裡に開催

5月9日、ロシアの戦勝記念日関連行事が開催された。同日午前、ウシャコウス・リガ市長やロシア大使らは、リガ旧市街からダウガヴァ川を隔てた「戦勝公園」に建てられている「Victory Monument」に献花した。周辺には数千人が集まった。9日午後11時過ぎまでにラトビア国内で同記念日の関連行事が20件行われたが、大きな事件は発生しなかった。

旧ソ連諸国は同日を第二次世界大戦終戦・対ナチス戦勝記念日としている一方、欧州諸国は5月8日を終戦記念日として祝っている。ラトビア人にとって5月9日はソ連によるラトビア占領の始まりを意味するため、ラトビア人はこの祝賀行事を軽蔑の気持ちで見る傾向にある。

◆ベンツピルス市でNATO水兵への暴行事件が発生

5月10日から11日にかけて、ベンツピルス市（リガの北西約200キロにある港湾都市）で掃海訓練「Open Spirit 2014」に参加していたNATO海軍部隊の水兵数名が、いくつかの暴行事件に巻き込まれた。オランダ出身の21歳の水兵は、同市のナイトクラブの外でけんかに関与したと見られ、頭部に重傷を負い、病院に搬送された。また、同様の事件に巻き込まれた数名の水兵も病院での手当を受けた。

レンベルグス・ベンツピルス市長は、本件訓練のためベンツピルス市に来たNATO水兵の行状は、地元住民にとって受け入れがたい平穩を害するものであったとして、ラスムセンNATO事務局長に抗議の書簡を発送した。

ストラウユマ首相は今回の暴行事件を「大変遺憾である」とした上で、レンベルグス市長の見解を非難した。また同首相は、「NATO軍部隊でのラトビアでのプレゼンスは、ウクライナ情勢等を受けた今日の国際情勢において非常に重要であり、NATO軍部隊はラトビアの要請に基づいて派遣された」と述べた。

この他、リンケービッチ外相、ベーヨニス国防相等がレンベルグス市長の見解を非難する発言をしている。

◆7千人の教員が給与引上げを求めデモ行進

5月12日、ラトビア国内各地から集まった約7,000人の教員が給与の引上げを求めてリガ市内をデモ行進した。今回のデモを企画したラトビア教育・科学職員労働組合のミキスコ会長は、「教員の月給はわずか420ユーロであり（2014年9月以降の教員の最低月収）、彼らには月平均で55.6時間分の労働への対価が支払われていない」と訴えた。デモ行進の参加者は、「この国には合理的な政策がない」「エストニアのように、800ユーロ（の月給）を」などと抗議していた。

デモ参加者の前に現れたストラウユマ首相は、「現状は理解するが、今後数年間で主立った給与の引上げは予測していない。EU内でラトビアの教育予算対GDPは高いが、教員の給与は最も低い部類に入る。問題は教育システムにあり、私はシステム変革のために関係者と協議する用意がある」と述べた。

◆ナチス及びソ連によるラトビア侵略を否定すると犯罪に

5月15日、国会はナチス及びソ連によるラトビア侵略を公的に否定することを違法にする改正刑法を可決した。違反した場合は最長5年の禁固刑となる。保安警察による

と、現行法においても提訴することは可能であるが、改正により当局が即時に調査を開始することが可能となった。

◆ボルダース前法相が「新保守党」を結成

5月17日、ボルダース前法相は「新保守党」を結成し、同氏は党首に選出された。10月の国会選挙に立候補するかどうかは近く決定される予定。同党のイデオロギーは「ナショナル・アライアンス」に近く、「統一」に加盟しなかった「市民連合」の党員を基礎にしている。

「統一」は、2010年に「新時代」、「市民連合」、「新政治の社会」の合併により結成された政党であるが、「市民連合」は3党の中で特に愛国主義的であると言われており、一部の議員は「統一」に加盟しなかった背景がある。

ベルズィンシュ「ナショナル・アライアンス」共同党首はこの新党結成を「ラトビア愛国主義者の支持票分裂をもたらし、反ラトビア政党に有利に働く」と批判している。

◆「改革党」の党員の一部が「統一」に移籍

5月19日、リンケービッチ外相、コズロウスキス内務相、リービニャ＝エグネレ国会副議長、カルニニャ＝ルカシェビツァ「改革党」議員団長を含む、8人の「改革党」党員が「統一」に移籍した。

「統一」は、これらの議員が10月の国会選挙に「統一」の候補者名簿から立候補するための条件として同党への入党を課していた。「改革党」の党首であるドンブロウスキス経済相も近い将来「統一」に入党する予定。

◆ラトビア治安警察が年次レポートを発表

5月19日、ラトビア治安警察はラトビアの治安状況に関する2013年版年次レポートを発表した。同レポートでは世論形成やエネルギー等の分野におけるロシアの影響力拡大への懸念が述べられている。主なポイントは以下の通り。

- ・ 例年と同様、2013年も、ラトビアを侵害する諜報活動が最も活発だったのはロシアの諜報機関によるものであった。ロシアはラトビアの信用を傷つけるためにマスメディアを積極的に利用した。
- ・ 外国の諜報機関はラトビアに対する自らの地政学的利益を追求するため、いわゆる「愛国主義的組織」を引き続き利用していくと見られる。
- ・ ロシア企業は、ラトビアのガス市場における現在の地位を維持しようと努め、(ロシアに変わる)ガス供給源の確立を妨げることを目的として、ガス市場の自由化に関し様々な情報活動を行った。

この他、ラトビアに脅威を与え得るロシア人活動家(「ラトビア無国籍者会議」の活動家、「反ナチズム協会」代表等)の名前を公表した。

◆公職者の裁判を優先的に実施

5月29日、国会は公職者の裁判を優先的に実施することを定めた改正刑事手続法を可決した。ラトビアでは一般的な裁判の長期化が問題視されている中、公職者が起訴され判決が出ないまま公職に留まるケースが多く、これを避けるために同法が改正された。

一部の議員は「これは（マネーロンダリング等の罪に問われている）レンベルクス・ベンツピルス市長等の特定の人々を対象としており、数人のために法改正を行うことは受け入れられない」と批判している。

◆5月に最も視聴されたテレビチャンネルはTV3

調査会社TNSのテレビ視聴率に関する調査によると、ラトビア国内で今年5月に最も視聴されたテレビチャンネルは「TV3」（ラトビア語、12.2%）であった。前月の調査で第1位であった「PBK」（ロシア語）は第2位の視聴率（11.2%）であった。

◆政党支持率—5月世論調査

（5月10日～20日、民間調査会社「Latvijas Fakti」が1,005名の住民を対象に実施。「もし明日選挙があるとしたらどの政党に投票するか」との問いに対する回答。括弧内は前月の結果。）

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 「調和センター」（最大野党：親露系） | : 18.4% (16.8%) |
| 「統一」（連立与党の中心：中道右派） | : 13.7% (16.1%) |
| 「緑と農民連合」（連立与党：中道右派） | : 10.3% (8.6%) |
| 「ナショナル・アライアンス」（連立与党：右派） | : 6.1% (6.3%) |
| 前会計検査院長官が結成した新党 | : 4.1% (2.8%) |
| 「改革党」（連立与党：中道） | : 1.8% (1.2%) |



【今月の注目記事】

◆リガ鉄道車両製造会社（RVR社）の売却

5月15日、リガの鉄道車両製造会社「Rigas vagonbuves rupnica」（RVR）社の入札が行われ、East-West Industrial Groupに売却された（売却価格は454万ユーロ）。同グループは今年5月8日に新たに組織されたパイプライン、冷凍システム、旅客ビジネス等3つの企業から成り、今後、軽量型・重量型輸送車両製造のための近代的な工場の設立を計画している。

RVR社はソ連時代からの鉄道車輛製造会社で、現在も複数の旧ソ連諸国、バルカン諸国で同社の車両が運用されている。

◆ラトビア政府は今後2、3か月でラトビア・ガス社購入の可否を検討

5月7日報道によると、ラトビアのガス市場を独占するラトビア・ガス社（Latvijas Gāze）の株の47.2%を保有するドイツのガス会社E.ON Ruhrgasがラトビア市場からの撤退を発表したのに対し、ラトビア政府が同社株の購入を検討している問題で、ストラウユマ首相は7日のテレビ番組において、政府は本件に関して今後2、3か月間検討すると述べた。当初、政府は5月2日までに株を購入するか否かの結論を出すとしていた。

◆バス会社Lux Express がリガ—モスクワ便を開設

5月6日報道によると、バルト三国最大の長距離バス会社「Lux Express」は、6月12日からリガ—モスクワ間のルートを開設する。所用時間は約15時間で、運賃は片道38ユーロから。1日1便運行。

◆ラトビアはEU域内で最も高い経済成長率—欧州委員会予測

5月6日報道によると、欧州委員会の春期経済見通しで、ラトビアの2014年のGDP成長率は3.8%、2015年の成長率は4.1%と予測されていることが明らかになった。この数値はEU域内及びユーロ圏内で最も高い水準。

◆ロシアがラトビア産豚の輸入を禁止

5月7日、EU諸国の豚コレラ対策が不十分であるとして、ロシアはラトビアからの生きた豚と豚肉の輸入を禁止した。今年1月、ロシアはアフリカ豚コレラの発生を受け、リトアニア及びポーランド産豚の輸入を禁止していた。ウクライナ情勢によりEU・ロシア関係が悪化している事から、輸入解禁までには時間がかかると見られている。

◆第1四半期のGDP成長率は2.8%

5月9日報道によると、中央統計局は、2014年第1四半期のGDP成長率（対前年同期比）の速報値は2.8%であると発表した。特に成長が著しかったのは建設業（25%の成長率）、小売業（同2.6%）など。

◆4月のインフレ率は0.7%

5月13日報道によると、ラトビア中央統計局は、2014年4月の物価上昇率は対前年同期比0.7%であったと発表した（物品価格は不変、サービス価格は2.6%上昇）。過去12か月間の平均物価上昇率（対前年同期比）は0.1%。

◆ラトビアの闇経済の規模が拡大

5月14日に行われたバルト三国の闇経済に関するカンファレンスで、ストックホル

ム経済大学リガ校のサウカ講師は、2013年のラトビアのGDPに占める闇経済の割合は23.8%であったと述べた（前年は21.1%）。2010年以降、同割合が前年の数値を上回るのは初めて。エストニアの闇経済の割合は15.7%（前年は19.2%）、リトアニアの割合は15.3%（同18.2%）で、それぞれ縮小した。

ラトビアで闇経済の規模が拡大した主な原因は、多数の企業の無申告所得が増加したためと見られている。またラトビアでは国家調達入札のための贈収賄が増加し、特に建設業でその割合が顕著であった。

◆2016年までにリガにヒルトン・ホテルがオープン

5月16日報道によると、2016年までに、リガ中心部のヴァルデマーラ通りにホテル「Hilton Garden Inn」（客室数139）がオープンする予定。

◆第1四半期の輸出は2.3%増、輸入は2.6%減

5月16日報道によると、2014年第1四半期のラトビアの輸出額は24億ユーロで、前年同期比で2.3%増加した。特に、輸送及び貯蔵部門（21.8%増）、建設部門（22.2%増）の輸出の成長が著しかった。輸入額は29億ユーロで前年から2.6%減少した。

◆エア・バルティック、2013年の利益は202万ユーロ

5月19日報道によると、ラトビアの国営航空会社エア・バルティックの2013年の売り上げは2億7,880万ユーロ（前年比1%増）で、利益は202万ユーロの黒字であった（2012年は3,100万ユーロの赤字）。同社の報告書によると、同社は空席の削減、目的地の最適化、サービスの効率化等を進め、収益を増加させた。

同社は2012年に連結赤字を2,700万ユーロまで削減するなど経営改善に取り組み、今年4月、2013年の連結純利益が96万ユーロの黒字に転換したと発表していた。

◆「リガ・ホテル」がケンピンスキー・グループの一員に

5月21日報道によると、旧市街の国立オペラ座の向かいに位置する「リガ・ホテル」（1950年代に開業）は、2015年12月までに大規模ホテル・チェーン「ケンピンスキー」により改修され、5つ星ホテル「Grand Hotel Kempinski RIGA」（客室数140）となる予定。総改修費は推定3千万ユーロ。

◆世界の経済競争力ランキングでラトビアは35位

5月22日報道によると、スイスの国際経営開発研究所（IMD）が発表した世界60か国の経済競争力に関するランキング「World Competitiveness Scoreboard 2014」

で、ラトビアは35位であった（前年は41位）。上位は1位から順に米国、スイス、シンガポール。日本は21位。バルト三国ではエストニアが30位、リトアニアが34位であった。

◆リガの水道料金の値上げ

5月28日報道によると、7月1日よりリガ市の水道料金が25%値上げされ、1m³あたり1.28ユーロとなる。リガ市の上下水道を管理するRigas ūdens社によると、1家計あたりの毎月の水の消費量は約5m³であるため、水道代の値上げによって平均1.54ユーロの負担増となる見込み。

— 外交 —

【今月の注目記事】

◆ベルズィンシュ大統領のウズベキスタン訪問（5月27日～29日）

5月27日～29日の間、ベルズィンシュ大統領は、リンケービッチ外相、マティース運輸相、ベーヨニス国防相らと共にウズベキスタンを公式訪問し、28日、カリモフ大統領と会談した。会談では、二国間関係、ウクライナ情勢、ラトビアのEU議長国時の優先課題等について協議し、2014～2016年のラトビア文化省・ウズベキスタン文化体育省間の協力協定、両国経済省間の再生可能エネルギー分野における協力協定、両国政府間の外交旅券保持者の査証免除協定等に署名した。また、ラトビア・ウズベキスタン・ビジネスフォーラムが開催された。

29日、ベルズィンシュ大統領はサマルカンド（タシケントの南西約300キロ）を訪問し、サマルカンド市及びユールマラ市の協力協定署名式に出席した。

◆ダライ・ラマ14世の来訪（5月5日～6日）

5月5日～6日の間、ダライ・ラマ14世がラトビアを訪問し、リガの国際展示場にてバルト三国で初めてとなるチベット仏教の教義に関する2日間の講義を行った。両日とも3,500人以上が来場した。ダライ・ラマのラトビア訪問は今回で4度目であり、これまで1991年、2001年、最近では2013年9月に訪問している。

◆リンケービッチ外相の訪仏（5月5日～7日）

5月5日～7日の間、リンケービッチ外相はフランスを訪問し、OECD閣僚理事会出席した。5日、リンケービッチ外相はファビウス仏外相と会談し、二国間関係、ラトビアのEU議長国への準備、ウクライナ情勢等に関して協議した。

6日、リンケービッチ外相はグリアOECD事務総長と会談し、両者はラトビアのOECD加盟に関する組織の特権・免除に関する合意書に署名した。ラトビアはOECD

加盟プロセスに入っており、2016年中の正式加盟を目指している。

◆ラトビア領海における国際掃海訓練の実施

5月9日～22日の間、年次の国際掃海訓練「Open Spirit 2014」がラトビア領海において行われた。同演習の主な目的は機雷駆除であり、13か国から26隻の艦船が参加した。中国及びトルコもオブザーバーとして参加した。

◆アーボルティニャ国会議長のモルドバ訪問（5月12日～14日）

5月12日～14日の間、アーボルティニャ国会議長は北欧バルト諸国（NB8）の国会議長と共にモルドバを訪問し、13日、コルマン・モルドバ議会議長と会談した。会談後の共同記者会見においてアーボルティニャ国会議長は、ロシアのモルドバに対する圧力（モルドバがEUとの連合協定に署名した場合、ロシアはモルドバとの経済関係を見直すと発言）に懸念を表明し、6月にEUモルドバ間の連合協定が署名される事を望むと述べた。

◆リンケービッチ外相のEU外務理事会出席（5月12日）

5月12日、リンケービッチ外相はブリュッセルを訪問し、EU外務理事会に出席した。同会合において、EU外相はウクライナ情勢や中東和平プロセス等について協議し、ウクライナ東部で11日に実施された住民投票を認めず、ウクライナ問題関係者に対するEU域内渡航禁止・資産凍結などの制裁者リストを拡大する事を決定した。また、リンケービッチ外相はブルカルテール・スイス外相と会談し、クリミア半島における少数民族の状況に注意を払うよう要請した。

◆リンケービッチ外相のスロバキア訪問（5月14日～15日）

5月14日～15日の間、リンケービッチ外相はスロバキアを訪問し、ラスムセンNATO事務総長、トウスク・ポーランド首相、オルバーン・ハンガリー首相、ビルト・スウェーデン外相、リンケビチュウス・リトアニア外相等と共に年次の国際安全保障フォーラム「GLOBSEC 2014」に出席した。

同フォーラムにおいて、出席者はウクライナ情勢、EU・ロシア関係等について協議した。リンケービッチ外相はウクライナ情勢に関するパネル・ディスカッションに参加し、ウクライナ情勢安定化には25日のウクライナ大統領選挙、親ロシア派勢力の暴力停止等が重要であると述べた。

また、リンケービッチ外相はライチャーク・スロバキア副首相兼外務・欧州問題相と二国間関係強化、ラトビアのEU議長国時の優先課題等に関して、ポポスキー・マケドニア外相とマケドニアのEU・NATO加盟に関してそれぞれ協議した。

◆リンケービッチ外相のトルクメニスタン訪問（５月１９日～２１日）

５月１９日～２１日の間、リンケービッチ外相はトルクメニスタンを公式訪問し、ベルディムハメドフ大統領、ヌルベルディエヴァ国会議長、メレドフ副首相兼外相、サトリコフ運輸通信担当副首相と会談した。両国は二国間関係、ＥＵ・トルクメニスタン関係、ラトビアのＥＵ議長国時の優先課題等について協議した。また、アシガバット～リガ～トロントの航空路線の開設にも言及した。リンケービッチ外相はトルクメニスタン側に在リガ・トルクメニスタン大使館の開設を要請した。

◆ウクライナに対する人道物資の提供を決定

５月１９日、ラトビア政府危機管理評議会は、ウクライナの支援要請を受け、同国に５万ユーロ相当の人道支援物資（ベッド等）を提供することを決定した。

◆パエト・エストニア外相の来訪（５月２２日）

５月２２日、パエト・エストニア外相はラトビアを訪問し、リンケービッチ外相と会談した。両者は二国間関係、地域エネルギー・運輸プロジェクト、ウクライナ情勢を含む安全保障等に関して協議した。

◆チャヴシュオール・トルコＥＵ担当大臣の来訪（５月２１日～２２日）

５月２１日～２２日の間、チャヴシュオール・トルコＥＵ担当大臣はラトビアを訪問し、２１日、リービニャ＝エグネレ国会副議長と、２２日、ストラウユマ首相、リンケービッチ外相とそれぞれ会談した。両国は二国間関係、ＥＵ・トルコ関係、東方パートナーシップ、ウクライナ・シリア情勢等に関して協議し、ラトビア側はトルコのＥＵ加盟に支持を表明し、トルコ側はラトビアのＯＥＣＤ加盟を支持した。

◆アーボルティニャ国会議長の訪中（５月２４日～３１日）

５月２４日～３１日の間、アーボルティニャ国会議長は中国を公式訪問し、２５日、中国在住のラトビア人団体と懇談した。２６日、北京外国語大学を訪問し、同大学学長やラトビア語を学習する学生と会談した。また、ラトビアに子会社を持つ華為技術（Huawei）ＩＴ企業関係者とも会談し、研究開発における協力の可能性について協議した。

２７日、アーボルティニャ国会議長は張徳江(Zhang Dejiang) 全人代常務委員長（国会議長）及び李克強(Li Keqiang) 国務院総理（首相）とそれぞれ会談し、運輸・物流分野における経済関係強化、ラトビアの食料品の中国市場への参入、６月にリガで開催される「運輸・物流に関するハイレベル会合」等について協議した。

◆ストラウユマ首相の非公式ＥＵ首脳会合出席（５月２７日）

５月２７日、ストラウユマ首相はブリュッセルを訪問し、非公式のＥＵ首脳会合に出

席した。会合において、EU各国首脳は欧州議会選挙の結果及び次期欧州理事会議長候補、次期欧州委員会の優先課題等について協議した。また、ストラウユマ首相はバローゾ欧州委員会委員長と会談し、ウクライナ情勢及びエネルギー問題等について協議した。

—日本との関係—

◆日本人ダンサーがリガの国際ダンスフェスティバルに参加予定

5月3日報道によると、6月12日～18日にリガで行われる国際ダンスフェスティバル「Laiks dejot」(Time to Dance)に、日本人ダンサーKo Murobushi氏、Hiroaki Umeda氏、Yukio Suzuki氏と、美術作家Soshi Matsunobe氏が参加する。

◆リガ・マラソン、優勝は日本人

5月18日、リガ・マラソンが開催され、世界61か国から約2万3千人のランナーが参加した。フルマラソン部門では日本人の千葉優選手が優勝した(タイムは2時間13分43秒)。

◆リガ写真月間で日本の写真を展示

5月23日から6月15日までリガで開催される「リガ写真月間」の枠組みで、写真展「European Eyes on Japan/ Japan Today vol.16」が開かれている。ここでは写真家Aleksandrs Gronskis氏が日本の高知県で撮影した風景や人々の写真が展示されている。同写真展は多くの日本企業がサポートするEUジャパンフェストの支援を受け実施されているもの。

◆ラトビアの製材会社が日本を訪問

5月23日報道によると、ラトビアの製材会社Balti Groupの代表者26名は3月23日から4月4日にかけて日本を訪れ、日本の企業と商談した。同社は東京木材埠頭を訪問し、日本木材輸入協会の代表者と懇談した。

◆「エア・バルティック」の制服が日本の雑誌で取り上げられる

5月27日報道によると、日本のファッション・生活雑誌「GINZA」6月号でラトビアの国営航空会社エア・バルティックの制服が取り上げられ、シンガポール航空やエミレーツ航空など12の航空会社のユニフォームと並び、世界で最もスタイリッシュな制服の1つに選ばれた。

—その他—

◆ミュージアム・ナイトの開催

文化省によると、5月17日のミュージアム・ナイト（ラトビア国内の複数の美術館・博物館が無料開放される日）の参加者は昨年から約9千人増加し、22万8千人であった。同日は、様々な博物館の前で長い行列が見られ、リガの内閣府ではストラウユマ首相が訪問客を出迎えた。

◆アイスホッケー世界選手権でラトビアのチームが健闘

5月9日～25日の間、ラトビアの隣国ベラルーシで開催されたアイスホッケーの世界選手権「IIHF World Championships」にラトビアのチームが参加した。決勝トーナメントには進出できなかったものの、最終的に準優勝したフィンランドに予選リーグで勝利するなど健闘を見せた。同選手権開催期間中、多数のラトビア人がベラルーシまで試合の観戦に行き、ラトビア国内でも試合が生放送されるなど大変な盛り上がりであった。

最終結果は優勝がロシア、準優勝がフィンランド、第3位がスウェーデン。

以上

2014年5月の主な出来事

| 日付 | 【内政】 | 【外交】 |
|-----|---------------------------------------|---|
| 1日 | EU加盟10周年記念行事開催 | |
| 2日 | | |
| 3日 | | |
| 4日 | | |
| 5日 | スドラバ前会計検査院長官が新党「心からラトビアのために」を設立 | ダライ・ラマ14世の来訪（～6日） リンケービッチ外相訪仏（～7日）、OECD閣僚理事会出席 |
| 6日 | | |
| 7日 | | |
| 8日 | 外国人不動産購入者に対するラトビア居住許可付与制度を見直す改正移民法を可決 | |
| 9日 | ロシアの戦勝記念日関連行事開催 | 国際掃海訓練「Open Spirit 2014」実施（～22日） |
| 10日 | | |
| 11日 | | |
| 12日 | 7千人の教員が給与引上げを求めてデモ行進 | アーボルティニャ国会議長モルドバ訪問（～14日） リンケービッチ外相ブリュッセル訪問、EU外務理事会出席 |
| 13日 | | |
| 14日 | | リンケービッチ外相スロバキア訪問（～15日）、安全保障フォーラム「GLOBSEC 2014」出席 |
| 15日 | リガ鉄道車両製造会社（RV R社）の売却入札 | |
| 16日 | | |
| 17日 | ボルダース前法相が「新保守党」を結成 | |
| 18日 | | |
| 19日 | 「改革党」の党員の一部が「統一」に移籍 | リンケービッチ外相トルクメニスタン訪問（～21日） |
| 20日 | | |
| 21日 | | |
| 22日 | | パエト・エストニア外相来訪 チャヴシュオール・トルコEU担当大臣来訪（～22日） |
| 23日 | | |
| 24日 | 欧州議会選挙 | アーボルティニャ国会議長訪中（～31日） |
| 25日 | | |
| 26日 | | |
| 27日 | | ベルズインシュ大統領、リンケービッチ外相、マティース運輸相、ペーヨニス国防相ウズベキスタン訪問（～29日） ストラウユマ首相ブリュッセル訪問、非公式EU首脳会合出席 |
| 28日 | | |
| 29日 | 公職者の裁判を優先的に実施することを定めた改正刑事手続法可決 | |
| 30日 | | |
| 31日 | | |

ラトビア主要経済指標

ラトビアは2014年1月1日ユーロを導入した(1ユーロ=140円)

GDP

| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 Q1 | 出典 |
|------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|----------|
| 名目GDP | 百万ユーロ | 22,886 | 18,598 | 18,190 | 20,312 | 22,083 | 23,315 | 5,957 | 中央統計局 |
| 国民一人当たりGDP | ユーロ | 10,509 | 8,682 | 8,673 | 9,866 | 10,859 | 11,575 | 2,668 | 中央統計局 |
| GDP実質成長率 | % | ▲ 2.8 | ▲ 17.7 | ▲ 1.3 | 5.3 | 5.2 | 4.1 | - | Eurostat |

財政収支, 政府債務残高

| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 Q1 | 出典 |
|-----------|-------|-------|---------|---------|-------|-------|-------|---------|-------|
| 財政収支 | 百万ユーロ | ▲ 969 | ▲ 1,807 | ▲ 1,475 | ▲ 725 | ▲ 299 | ▲ 212 | - | 中央統計局 |
| 財政収支対GDP比 | % | ▲ 4.2 | ▲ 9.7 | ▲ 8.1 | ▲ 3.6 | ▲ 1.4 | ▲ 0.9 | - | 中央統計局 |
| 政府債務残高 | 百万ユーロ | 4,533 | 6,867 | 8,085 | 8,501 | 8,972 | 8,873 | - | 中央統計局 |
| 政府債務対GDP比 | % | 19.8 | 36.9 | 44.4 | 41.9 | 40.6 | 38.1 | - | 中央統計局 |

失業率, インフレ率, 月額平均賃金

| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 Q1 | 出典 |
|-----------|-----|------|------|-------|------|------|------|---------|-------|
| 失業率 | % | 6.0 | 13.2 | 14.5 | 12.0 | 11.4 | 9.0 | 9.1 | 中央統計局 |
| インフレ率 | % | 15.4 | 3.5 | ▲ 1.1 | 4.4 | 2.3 | 0.0 | 0.3 | 中央統計局 |
| 平均賃金(グロス) | ユーロ | 682 | 655 | 633 | 660 | 685 | 716 | 756 | 中央統計局 |
| 平均賃金(ネット) | ユーロ | 498 | 486 | 450 | 470 | 488 | 516 | 555 | 中央統計局 |

海外直接投資(FDI)

| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 Q1 | 出典 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|---------|------|
| 海外直接投資残高 | 百万ユーロ | 8,126 | 8,073 | 8,184 | 9,360 | 10,258 | 11,472 | 10,260 | 中央銀行 |

貿易統計

| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 Q1 | 出典 |
|---------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 輸出(FOB) | 百万ユーロ | 6,302 | 5,126 | 6,680 | 8,535 | 9,871 | 10,001 | 2,391 | 中央統計局 |
| 輸入(GIF) | 百万ユーロ | 10,711 | 6,701 | 8,412 | 10,983 | 12,512 | 12,568 | 2,940 | 中央統計局 |
| 貿易収支 | 百万ユーロ | ▲ 4,409 | ▲ 1,575 | ▲ 1,732 | ▲ 2,448 | ▲ 2,641 | ▲ 2,567 | ▲ 549 | 中央統計局 |

日・ラトビア貿易(ラトビア政府統計)

| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 Q1 | 出典 |
|---------|------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|
| 日本への輸出 | 千ユーロ | 21,870 | 25,035 | 33,634 | 34,792 | 34,616 | 44,372 | 10,186 | 中央統計局 |
| 日本からの輸入 | 千ユーロ | 27,369 | 8,667 | 7,463 | 16,975 | 14,049 | 12,050 | 2,941 | 中央統計局 |
| 対日貿易収支 | 千ユーロ | ▲ 5,499 | 16,368 | 26,171 | 17,817 | 20,567 | 32,322 | 7,245 | 中央統計局 |

日・ラトビア貿易(日本政府統計)

| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 Q1 | 出典 |
|-----------|-----|-------|---------|---------|-------|---------|---------|---------|-------|
| ラトビアへの輸出 | 百万円 | 6,693 | 2,043 | 3,458 | 4,050 | 4,908 | 5,054 | 1,074 | 財務省統計 |
| ラトビアからの輸入 | 百万円 | 3,599 | 3,696 | 4,609 | 4,587 | 8,761 | 6,658 | 1,609 | 財務省統計 |
| 対ラトビア貿易収支 | 百万円 | 3,094 | ▲ 1,653 | ▲ 1,151 | ▲ 537 | ▲ 3,853 | ▲ 1,604 | ▲ 535 | 財務省統計 |

両国間の訪問者数

| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 Q1 | 出典 |
|---------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|--------|
| ラトビア→日本 | 人 | 1,296 | 865 | 875 | 495 | 807 | - | - | 日本入管統計 |
| 日本→ラトビア(宿泊統計) | 人 | 6,043 | 6,690 | 5,428 | 5,843 | 7,322 | 8,988 | - | 中央統計局 |